

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	一般財団法人長野市文化芸術振興財団	
施 設 名	長野市芸術館	
助成対象活動名	人材養成事業、普及啓発事業	
内定額（総額）	3,972	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業	2,010	(千円)
普及啓発事業	1,962	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高校生のためのプラス・クリニック	平成30年5月4日	講師：斉藤和志、金子紗綾香、大西幸生、亀井良信、山口真由、川合大地、中澤美紀、小山弦太郎、川島亜子、由井平太、根本めぐみ、三谷政代、澤田真人、小林史尚、井上康一、太田涼平、山口康子、大山智、三村大生、谷口拓史、山田徹、腰野真那	目標値	200人
		長野市芸術館		実績値	200人
2	長野市青少年合唱団（仮称）の結成に向けたキックオフ事業	平成30年6月24日発足	団員99名 指揮者：片山みゆき 副指揮者：松尾明日香 ピアノ：瀧澤典江、原瑞穂、宮下静香 アシスタント：伊藤雅美、杉山哲夫、新田久美（市内小学校教諭）	目標値	団員50人
		長野市芸術館		実績値	団員99人
3	えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座	平成30年8月19日～平成31年3月10日	講師：わたなべなおこ	目標値	20人
		長野市芸術館アクトスペース		実績値	29人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	270人
				実績値	328人

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	お届け芸術館（旧・クラシック音楽キャラバン）	平成30年10月15日～平成31年1月28日	全27公演 出演者：田中美恵子(Vn)、高久史子(Pf)、尾尻雅弘(Gt)、渡辺幸絵(FI)、竹内遥香(Hp)、汐入規予(Va)、新村邦明(Pf)、宮下静香(Cemb)	目標値	3,000人
		小・中・養護学校、市内児童センター、介護施設、公民館		実績値	1,632人
2	NCAC音楽大学	平成30年4月27日～平成31年1月30日	前期講師：緒方英子 後期講師：加藤昌則	目標値	720人
		長野市芸術館リサイタルホール		実績値	1,416人
3	0歳からのリトミック&コンサート	平成30年11月24日	出演者：坂本真理子、平尾佳奈子、飯島諒、中村ゆかり、飯島未来、柳川侑那	目標値	200人
		長野市芸術館リサイタルホール		実績値	280人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	3,920人
				実績値	3,328人

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

長野市芸術館は「文化芸術活動の場を提供すること等により、創造的で多様な文化芸術活動を促進し、もって文化力あふれるまちづくりに資する」という社会的役割（ミッション）を掲げており、主催事業は、長野市芸術館建設時に長野市が策定した「新市民会館運営管理基本計画」及び「（仮称）長野市民文化芸術会館運営管理実施計画」に記載されている役割『育む』『楽しむ』『創る』『つなぐ』をコンセプトに実施している。

人材養成事業で実施した事業は、これからの長野市の文化芸術を担う子ども達や、地域で活躍するファシリテーターといった人材を『育む』事業であり、クリニックや講座の開催による地域人材の育成や、長野市芸術館ジュニア合唱団の結成といった成果を残せた。ファシリテーター養成講座では、受講生から実践的な内容を求める声が多かったことから、予定していたシンポジウムを実施せず、市民公開ワークショップを開催し、実際にファシリテーターを務める実地研修を実施した。

普及啓発事業で実施した事業は、文化芸術の体験によって、市民の文化芸術に対する意欲を『育む』事業であり、アウトリーチプログラムや講座及び公演の実施など、当初の予定通り開催することができた。お届け芸術館では、出演者を当初予定した登録アーティストから、地元で活躍する演奏家に変更した。これはアウトリーチでより市民に近い場所で、地元の演奏家を観てもらうことで、演奏家を応援する機運を高め、より文化芸術を身近に感じてもらうことを目的に変更したものである。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

長野市の文化芸術活動の中核を担う拠点を目指しており、助成をいただいたことで、気軽に文化芸術に触れることが出来る機会の提供や、将来の長野市を担う世代の育成ができ、地域の活性化や文化芸術の振興に貢献できている。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

「高校生のためのプラス・クリニック」では北信地域の高校生219名が、《ナガノ・チェンバー・オーケストラ》メンバーであるプロの演奏家から指導を受け、演奏技術の向上に繋げることができた。楽器毎の受講とすることで、学校の枠を超えた交流の場を提供し、新しい繋がりを創ることができた。

指揮者に片山みゆき氏、副指揮者に松尾明日香氏を招聘し「長野市芸術館ジュニア合唱団」を結成した。運営に当たっては地元のピアニスト及び市内小学校教諭によるアシスタントの体制を確立し、地元団体との協力によって運営がされている。月2回練習を行い、結成初年度からゲストとして2公演に出演し、次年度以降の活動に繋げることができた。

開始から3年目となる「えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座」は、今年度22名が参加し、2年目に開発したプログラムを実践する試演会の開催や、公開ワークショップの実施など、より実践的な内容に取り組み、地域社会でのコミュニケーション・ワークショップの活用に向けた取組ができた。

「お届け芸術館」は、小中学校、中山間部、福祉施設、養護施設などで全27公演を実施した。演奏だけでなく、ホールでの演奏体験を踏まえたトークや、直に楽器に触れてもらうなど、音楽をより身近なものとし、豊かな地域創りに繋ぐ機会となった。

「NCAC音楽大学」は、鑑賞公演の事前講座として位置づけ、前期は楽器、後期は作曲家というテーマを設定した連続講座として開催した。前期は実際に楽器に触れる機会を設け、後期は講師自身が演奏することで、より理解を深めやすい内容とし、鑑賞公演へ誘うことができた。

「0歳からのリトミック&コンサート」は2年間実施してきたリトミック講座の最終編であり、本格的なクラシックの演奏を聴きながら親子でリトミックを体感できるコンサートとした。市内の子育て世代に浸透し、次年度以降は市民団体が自主的に開催することとなった。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成事業については、概ね事業期間、事業費いずれも当初の計画通りに実施することができた。「えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座」では、参加者数が予定していた人数よりも増え、また当初予定していた講師を招いたシンポジウムの実施ではなく、参加者から要望が多かった市民公開ワークショップによる実地研修としたことで、事業費が抑えられただけでなく、これまでの学習を活かし、ファシリテーターとして実際に活動する成果もあげることができた。「高校生のためのプラス・クリニック」は、北信地域の高校に新入生が入部し、コンクールへ向けた練習が本格化する前の時期を狙って実施をしており、各高校のレベルアップに繋がられた。

「NCAC音楽大学」は、前年以前のアンケート結果から、前期は試行的に昼夜2回の講座としたが、集客が分かれてしまったため、後期は1回1講座とした。2回の講座は今後難しいと考える。

普及啓発事業では、事業費については当初の計画通り実施し、事業期間については「お届け芸術館（旧・クラシック音楽キャラバン）」の事業期間に変更があった。これは当初3月まで予定していたアウトリーチプログラムについて、1月までと短縮したもの。これは2～3月は積雪やインフルエンザの流行により開催に適さないと判断したためであり、事業期間を短縮したものの、当初予定した公演数を概ね達成することができた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

長野市芸術館は「文化芸術活動の場を提供すること等により、創造的で多様な文化芸術活動を促進し、もって文化力あふれるまちづくりに資する」という社会的役割（ミッション）を掲げ事業を実施した。

「0歳からのリトミック&コンサート」では、開館当初から2年間おこなってきたリトミック講座の講師たちが主導して、生演奏と組み合わせたリトミック・コンサートとして実施した。リトミックは身体を動かすことが基本だが、可変型で多目的な用途に使用できるアクトスペースでの開催ではなく、生の音の響きを重視したリサイタルホールでの開催とすることで、良質の音に合わせて身体を動かすリトミックの意義がお客様もよく理解できた内容となった。舞台スタッフも照明やステージングで内容に沿ってかなり工夫をし、リハーサルで段取り等を出演者たちと一緒に創り上げた点では唯一無二の公演内容になった。あえて「コンサート」の形にこだわった初めての試みだったが、音の響きの良い当ホールで実施したからその成果があったと判断できる。

「NCAC音楽大学」では、吹奏楽連盟と協力し小学生、中学生、高校生にも働きかけを行い、夕方の講座に来場してもらうことができた。市内楽器店にも協力をいただき、サクソ、ホルン、フルート、トロンボーンを開演前と終演後にホワイエで自由に触れ、試奏できるようにしたところ、手にとるお客様が多く、同楽器店が実施している体験教室の受講や楽器購入まで繋がっており、事業効果の拡がりを感じる事が出来た。

人材育成事業では、久石譲芸術監督が立ち上げた《ナガノ・チェンバー・オーケストラ》のメンバーによる、北信地域の高校生吹奏楽部員の指導を行う「高校生のためのブラス・クリニック」の開催や、「長野市芸術館ジュニア合唱団」では、音楽教育活動を多く行っている片山みゆき氏を指揮者に招聘するなど、一流のアーティストや指揮者がこれからの長野市の文化芸術の発展を担う世代との交流や育成に関わる場を提供した。これら育成事業を通し、長野市芸術館を拠点として、更に世界へ飛び立つ人材を育成することで、長野市民が地域に誇りを感じ、文化芸術を応援していく風土の醸成を図った。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

「お届け芸術館」では、平成29年度まで実施していた「クラシック音楽キャラバン」から内容を見直し、曲目をクラシックに限定せず、開催会場から聴衆が聴きたいジャンルをオーダーしてもらうことにより、より地域のニーズに応えた形で音楽を届けることができた。また、出演者を地元で演奏活動を行う演奏家とすることにより、聴衆にとって音楽を身近に感じてもらう場となり、演奏家にとってはアウトリーチによる演奏で様々な学びの場となり、地域の文化振興に貢献できた。

「えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座」では、当初最後の2回は講師を招いて行うシンポジウムを予定していたが、参加者からの要望が多かった公開ワークショップへ変更し、2月は小学生、3月は大人を対象としたワークショップを実施した。大人を対象としたワークショップについては、住民自治協議会、社会福祉協議会、長野市高齢者活躍支援課を通して男性、特に高齢者をターゲットに募集を実施し、地域の様々な社会問題や地域コミュニティ再生の処方箋として生かしていく事を目的に育成しているファシリテーターが実際のワークショップを体験したこと、また新たにワークショップに参加した人が増えたことにより、地域に新たな活力とコミュニケーションを創出するきっかけとすることができた。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団は、長野市芸術館の指定管理者として委託を受けており、実施する事業はすべて長野市の指定事業として行っている。平成30年度の決算は、施設利用料収入や年間協賛金で予算を上回る収入を得られ、黒字決算となった。これらは稼働率の向上や、年間協賛社が増えたことによるもので、長野市芸術館の知名度や活動に対する理解が深まってきたことによる結果と考えられる。また、主催事業の入場率も平成29年度の79%から平成30年度は83%と向上しており、お届け芸術館などアウトリーチプログラムの充実や、親子で楽しめるリトミックコンサート、音楽の知識の幅を広げるNCAC音楽大学など、普及啓発事業の充実による成果があった。

主催事業ではそれぞれ事業カルテを作成しており、一つ一つの事業について事業目的、広報・営業・宣伝、事業効果について担当者自ら検証を行い、今後の事業に活かす体制を整えている。また、第三者による評価制度を取り入れており、平成30年度事業について有識者等から評価をいただいたが、令和元年度以降は、よりアウトカム（成果）やインパクト（波及効果）を考慮した評価指標の導入を検討しており、今後の事業に活かしていきたい。

人事戦略として、これまでの雇用環境は、全職員が非常勤職員、任期付職員（1年）のため、長期的なビジョンの構築や継続的な事業の企画には不向きな組織体制だったが、現在は段階的に、任期の定めがない常勤職員へと条件を改善していく方向で検討を進めている。